

第10回 全国高等学校 ビジネスアイデア甲子園 応募用紙

提出日 **2011** 年 月 日

ビジネスアイデア名	地域活性化事業 遊休農地の活用法 「 ドリームファーム事業 」
アイデアの内容	<p>〈記入のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アイデアの概要(どのようなものですか) ②アイデアを思いついたキッカケ ③これまでのものとの違い ④商品やサービスなどのイメージ図 などを織り込んでまとめてください
<p>浜松市東区は浜松市内でも農地面積が広く、米の生産高も浜松市内で1位をほこる。昔から農業が盛んで多くの農産物も出荷されている。にも関わらず東区の農業は後継者不足と高齢化が深刻で、遊休農地が多く存在していると聞いた。加えて、今年商品と流通の授業で「食の力で地域を活性化」させるプロジェクトに取り組み商品開発を考えてきた。食育の授業を受けて日本の受給率の低さや、食を取りまく現状がひどく悪化していることを学んだ。この取り組みで自分たちの食生活を見直すことにつながった。</p> <p>そこで、私たちは地域に点在する遊休農地の活用法について着眼し、私たち自身の食生活を支え、さらに地域を活性化させる仕組みについて考えてみた。これまでも浜松の農業者は常に新しい取り組みにチャレンジしてきたことを学び、農工商さらには学校が連携する新たなビジネスプランを提案する。</p> <p>具体的な内容は、地域の遊休農地を学校単位で借り上げ、学校ごとに農業に取り組む。農家以外の方が農業に取り組む時には地方自治体から助成があると聞いたので始めやすい。農業のノウハウについては地元の農業従事者の方々を中心に教えていただく。生徒と地域が一体となり農作物を生産し、生産された農作物は地元の小売店や学校の文化祭などで販売する。さらにはその年に作付した農作物を使って生徒が地元の企業と連携し、新商品として発信する。</p> <p>その年の収益は次の年の活動費や新商品開発研究費などにあてて毎年継続して取り組めるようにする。地元で生産された農作物を地元で消費すれば、地産地消にもつながり、農業の担い手がいない現状を変えることにもなる。さらには自分たちが食べるものを作る活動に携わることで、子供たちの食育にもつながり、企業と連携していけるなら地元の伝統料理の再発見や開発もでき、地域を活性化させるビジネスプランになるだろう。</p>	

《注意事項》 応募は、本紙またはコピーを使用してください。
 応募要項および応募用紙は用センターへご請求いただくか、「全国高等学校ビジネスアイデア甲子園」ホームページ【大阪商業大学】⇒【リエゾンセンター】⇒【アイデア甲子園】(http://ouc.daishodai.ac.jp/research/high_school/business_idea/)からダウンロードしてください。
 追加資料をつけても構いません。ただし A4・1 枚のみ。※規定を超えるものについては審査の対象外となりますのでご注意ください。